

## 【短報】東京都からアシプトケシキスイを記録

アシプトケシキスイ *Physoronia (Lordyrodos) latipes* (Reitter, 1884) は、本州、四国、九州から生息情報のあるケシキスイ科の稀な甲虫である。

本種は、1881年に熊本県に足跡を残したジョージ・ルイス George Lewis が“Rakuwayama”で採集した数頭をもとに記載された (Reitter, 1884, 1885)。この地名が現在のどこにあたるのかは不明であるが、人吉市近郊にあたり、おそらくは低山地帯と考えられている (江崎, 1953; 久松, 1976)。原記載以降しばらく記録は途絶え、じつにほぼ1世紀後となる1976年に、久松により四国の剣山から再発見され、静かな興奮をとまなげて再記載されたことから、その珍品ぶりがうかがえる。本種は保育社の『原色日本甲虫図鑑』の第3巻に図示されており、酷似種の存在は知られていないため、必ずしも同定が困難な種ではないものの、たいへん地味な小甲虫でもあり、関心の度合いによっては見過ごされがちとも思われる。ただし、その解説には「きわめてまれ」と記され (久松, 1985)、実際、特定地域を扱った甲虫目録に本種が掲載されていることも少ない。

比較的新しい記録としては、九州や四国の山地 (廣川, 1998; 吉田ら, 2008)、紀伊半島の山地 (水野, 2001)、日本海側の福井県 (酒井, 1988) をはじめ、隠岐諸島からも見つかっている (林ら, 2006)。ただし、記録は概して散発的であり、過去の発見状況も明らかではないケースが多く、得がたい種であることに変わりはない。唯一、廣川 (1998) はキノコが発生した朽ち木のピーティングで得たとしているが、キノコについていたかどうかは不明としている。

筆者は、東京都の奥多摩町で本種を採集する僥倖に恵まれたので報告する。近県からは群馬県 (平野, 2003) からの記録が知られるが、ほかに関東地方からの確認例を筆者は寡聞にして知らない。

1 ex., 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山~人形山 (標高 1,000-1,100m), 8. VI. 2012, 筆者採集・保管。

東京都初記録。ブナ、ミズナラを主体とした樹

林内で採集した。樹皮がなく、手で簡単に崩れるほどボロボロになった古い立ち枯れにできた凹部 (哺乳類か鳥類の古い巣穴が拡大してできたものと想像された) に白っぽい菌類が発生しており (子実体を形成しておらず、窪みと溜まった小木片に菌糸が綿状にまとわりついた状態)、そこにみられた多数のウスオビキノコケシキスイ *Pocadites dilatimanus* (Reitter, 1877) と少数のアモンヒラタケシキスイ *Ussuriphia hilleri* (Reitter, 1877) などに混じて1個体だけ見つかった。ただし、菌類上からではなく、小木片の下をほじくって見いだした。なお、本種の得がたさはその特異な生態に起因していると予想されるので、蛇足かもしれないが、この立ち枯れの同じ凹部からは1ヵ月ほど前にホソアシチビシテムシ *Cholevodes tenuitarsis* Portevin, 1928 を得ていることを付記しておく。また、本種の背面は泥のような附着物に多少とも覆われるとされるが、本個体もそのような状態だった。ここにも、本種の生態解明の糸口があると思われる。

本種はもともと *Lordyrodos* 属で記載され、その後、ブータン、ラオス、ベトナム、インドから見つかった4種とともに *Physoronia* 属の *Lordyrodos* 亜属にまとめられた (Jelinek, 2008)。本種は単に珍しい種というだけでなく、本亜属のタイプ種となっていることから、その分類学上の存在意義は小さくない。

## 引用文献

- 江崎 三, 1953. 外国人による九州の昆虫採集. 新昆虫, 6(3): 2-7.
- 林 成多・藤原淳一・島田 孝・米田友祐・六車恭子・成田行弘, 2006. 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料—2005年8月7-10日に島後で採集・観察した昆虫類の目録—。ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 245-263.
- 平野幸彦, 2003. アシプトケシキスイの群馬県の記録. 月刊むし, (386): 45.
- 廣川典範, 1998. 九重黒岳のアシプトケシキスイの記録. 佐賀の昆虫, (32): 130.
- 久松定成, 1976. 95年ぶりに再発見された *Lordyrodos latipes* Reitter アシプトケシキスイ (新称). 北九州の昆虫, (23): 5-7, pl. 4.
- 久松定成, 1985. ケシキスイ科. 黒澤良彦, 久松定成, 佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III), 175-196pp, pls. 28-31, 保育社.
- Jelinek, J., 2008. Two species of *Physoronia (Lordyrodos)* from Indochina (Coleoptera: Nitidulidae: Nitidulinae). The entomological review of Japan, 63(1): 7-13.
- 水野弘造, 2001. 水野弘造の20世紀甲虫誌. 関西甲虫談話会資料, (18): 1-147.
- Reitter, E., 1884. Die Nitiduliden Japans. Wiener Entomologische



図1. アシプトケシキスイ (奥多摩町産)。

Zeitung, (3): 257-272.

Reitter, E., 1885. Die Nitiduliden Japans. Wiener Entomologische Zeitung, (4): 173-176.

酒井哲弥, 1988. 福井県未記録の甲虫数種. 福井虫報, (2): 48.  
吉田正隆・黒田祐次・田中光治・櫻木大介, 2008. 美馬市木屋平地域の甲虫. 阿波学会紀要, (54): 65-75.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

### 【短報】ヒメドロムシ科の蛹を野外で発見

ヒメドロムシ科は微少な種が多く、幼虫が水中生活をしていることもあり、国内では野外での蛹の確認例はない。一方、飼育条件においてヒメハバビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura, 1958 やアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958), ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura, 1957, ハガマルヒメドロムシ *Optioservus hagai* Nomura, 1958 の蛹が確認されている(林, 2008, 2009, 未公表; 林・門脇, 2008)。飼育条件下での蛹化場所はいずれも陸上であり、上陸直前に幼虫がC字型に曲がった状態で水面近くを浮遊することが観察されている(林, 2009)。

筆者は種は不明なものヒメドロムシ科の蛹を野外で確認したので報告する。



図1. 蛹の確認場所の環境。



図2. 生時のヒメドロムシ科の蛹。



図3. エタノール液浸標本。

1ex. (蛹), 島根県江津市江の川河口右岸, 25. VII. 2012, 筆者採集。

河口の水際の砂礫地(図1)にて、石起こしをしていたところ、直径4cmほどの石の下に白色の蛹が見つかった(図2)。蛹は活発に腹部を動かして動き回った。採集した蛹は暑さにより衰弱したため、70%エタノール液浸標本とした(図3)。

蛹は比較的、体長3.0mm前後であること、後翅が認められること、肢が非常に長いことから、アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura, 1958 やイブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura, 1958, キスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schonfeldt, 1888) のいずれかに相当するとみられる。発見場所が河口であったことから、上流から流れてきた幼虫が、確認地点に漂着して蛹化したのではないかと考えられる。

今回の発見例は偶然の要素が大きいと思われるが、飼育下での観察例も考慮すると、川辺の石起こしでヒメドロムシ科の蛹が見つかる可能性を示唆している。

### 引用文献

- 林 成多, 2008. 島根県産水生甲虫類の分布と生態 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 61-91.  
林 成多, 2009. 島根県産水生甲虫類の分布と生態 III. ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 235-258.  
林 成多・門脇久志 (2008) 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 269-286.

(林 成多 ホシザキグリーン財団)